

●「赤心」継がん

Dream

五代塾
Godaijuku

Sinbun (新聞)

第24号

発行：Dream 五代塾

吹田市千里山西5-14-17

発行責任者：理事長 川口 建



田貫湖（静岡県富士宮市）から見る富士山と日出
休暇村富士の客室から筆者写す（2024年10月21日）

2025年
今年もご指導ご鞭撻のほど
よろしくお願いいたします

Dream 五代塾 理事長 川口 建

今年のお正月は平穏、穏やかに迎えることができ早一ヶ月が経過しました。昨年は年明け早々に能登半島地震に見舞われ、立て続けに羽田空港での航空機衝突事故が発生し、先行き大きな不安を抱えるスタートでした。また、各国間での紛争や近隣国のきな臭い動き、国内に転ずれば国家観や未来への展望を明示せず、何も決まらない先送り政治が続き、1年が過ぎ去ったと2024年は総括できる。

今、2025年に入り冷静に考えてみるが何も良くなる要素はない。強いリーダーシップが発揮でき、「志と覚悟」のある人材が出てこない限り難しい。今年の明るい材料として筆者個人的には、大阪・関西万博を成功させることが大きなチャンスと考える。世界を巻き込んだ国家的な大イベントである。

大阪・関西万博は4月13日から10月13日迄の6ヶ月間開催される。「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマのもとに、10年、20年、50年先を見据えた「未来社会の羅針盤」である。

世界初の万博は1851年にロンドンで開催され、英国の産業革命で強化され近代産業の進化や各国の文化を中心に世界に発信されてきた。今回の万博は人間の命に直接かわる未来社会が体験できる夢のある構成になっている。いかに健康で長生きできるかは、高齢化が進む日本に限らず全世界の共通課題である。もう一つの万博の華は海外パビリオンをはじめ、個性的なパビリオンが立ち並び、そして世界最大規模の木造建築物の大屋根リングに上り、関西の湾岸都市群や青く輝く大阪湾と大空を眺める景色は圧巻だと想像できる。

55年前の1970年に大阪の地で大阪万博が開催された。この時の体験者は凡そ今60歳以上の方々のみであり、その一人としてアドバイスをするのであれば、若い人、特に小学生から大学生の方には是非会場に出向き、自ら体験し、更に進化する未来の想像を望みたい。

さて、158年前に遡るが1867年第二回パリ万博（日本初参加）に五代友厚が大きく関与している。開催の2年前になる1865年に欧州視察した際にフランスのモンブラン伯爵よりパリ万博への出展紹介があり、徳川幕府が出展を躊躇している間に五代と松木弘安は現地に出展を決定しフランスに参加を申し込んだ。結果、幕府、薩摩、佐賀藩が三者同列で出展に至った経緯がある。五代は欧州視察で得た情報から、万博参加が日本の産業近代化への必要性を素早く想定できたことと判断できる。万博は一例であるが、五代は若い時から産業報国に深く根差し断固たる志と覚悟を實踐できていることがわかる。

なお、五代は実業界に転身するにあたって「志と覚悟」を強く持ち行動した記録がある。その具体的な言葉を紹介しておきたい。

五代が官を辞して野に下ったとき、小松帯刀、大久保利通にその決意を語った。

「今政府においては、幾多の人材を擁するも、民間にはその人なし、余は今より冠を担いで民間に下り、国家的見地に立つて、一般商工業を鼓舞奨励して、わが国、民業の振興を図り、以て国家国民の富強に努めんとす」

当時、有川十右衛門宛て書簡の中に次の言葉が記されている。官を辞し野に下ったのち、政府は五代の非凡の才能を惜しみ、五代を召して再び官途に就かしめようとし、西郷従道、川村純義らが幹旋に努力したが、初志を曲げず遂に応じなかった。

「男子一度決心せし上は、仮令朝命なりとも志を翻し難し、わが国に生まれ、わが国を思わざるにあらざり、また尽くすべきところこれ有り、自ら報国の志をも相立つる心得に候御安心相成度候」

明治の主な公害とその対応
— 渋沢栄一が関わった
足尾銅山鉱毒事件と
浅野セメント工場粉害事件 —

Dream 五代塾会員 上村修三
 (五代友厚顕彰会世話人)

明治以降の急激な近代産業の発展に伴い、
 煙毒による大気汚染、悪水による水質汚染な
 ど、公害問題が発生した。鉱山では、古河家が
 経営する足尾銅山煙毒及び鉱毒被害、住友家
 が経営する別子銅山(愛媛県)や久原房之助が
 経営する日立鉱山(茨城県)における煙害があ
 げられる。渋沢栄一が関わった足尾銅山での
 鉱毒事件、浅野セメント工場での粉害事件の
 対応について見てみよう。

○足尾銅山鉱毒事件

古河市兵衛が経営に乗り出した足尾銅山
 では、1878年には、銅山排水による川水質
 汚染並びに住民被害が報告されており、18
 80年には、行政側は、渡良瀬川の魚を有害と
 警告、魚類捕獲禁止令を出すも、公害発生源の
 銅山に対し対策を打たなかった。その年に、足
 尾銅山組合が発足し、当時、第一国立銀行頭取
 であった渋沢栄一は、出資し銅山経営に参画
 することとなった。この組合は、1888年に
 は解散し、渋沢は銅山経営から離れ、以降は古
 河家が担うこととなった。1890年、大洪水
 発生により大規模な鉱毒事件が発生し、鉱毒
 反対の動きが表面するも、渋沢は、足尾銅山鉱
 毒事件の解決策に乗り出すことはなかった。
 さて、足尾銅山公害防止対策であるが、1
 897年に政府は足尾鉱毒排除命令を発令、
 1905年、政府は谷中村を買収し、渡良瀬遊

水池を作る計画を立案した。1907年、政府
 は強制執行により谷中村の残存家屋を撤収し
 た。大正・昭和になっても、洪水に伴う鉱毒汚
 染はたびたび発生し、1973年の足尾銅山
 閉山まで公害は続いた。

公害の加害者である古河鉱業と行政との
 間で、1976年に公害防止協定を締結した。
 その内容はつぎのとおりである。

- ① 坑廃水及び環境における水質の測定
- ② 水質測定結果を行政に報告すること
- ③ 行政の公害担当職員の鉱山への立入検査
実施
- ④ 鉱山及びその周辺の緑化等環境美化
- ⑤ 公害防止協議会設置

1980年には、古河鉱業負担による公害
 防除特別土地改良事業が開始され19年間続い
 た。

それ以外に、訴訟中の公害被害者団体との
 和解で、二つの団体に対し、古河鉱業は、19
 75年に2.3億円、1976年に1.1億円の被害
 補償金を支払って和解した。

○浅野セメント工場粉害事件

日本におけるセメント工場は、1875年
 創立の官営深川セメント工場が始まりであ
 る。1884年、渋沢の資金的な援助もあり浅
 野総一郎が払い下げを受け浅野セメントが操
 業を開始した。渋沢は出資社員として経営に
 参加した。1903年に新規に回轉窯を導入
 し、生産量が急増すると、粉塵による健康被害
 となるセメント粉塵問題が拡大することとな
 った。1911年には被害住民からは立ち退
 きを迫られる事態に発展した。渋沢は被害住
 民の訴えを聞き入れて現地視察し、その翌日
 には、出資社員集會を開催し、「充分除害の方
 法を協議すべし」と渋沢は発言し、渋沢の仲介
 もあり浅野セメントと被害住民側との協議の

結果、1912年には「5年以内に工場を立ち
 退かせる」との合意となり、一応の解決となっ
 た。

なお、煙毒では、渋沢が関わった1873
 年創業の王子製紙(創業時は抄紙会社と名乗
 った)の王子工場のエピソードが次のように
 残っている。

— 渋沢の本宅(現東京都北区飛鳥山公園)
 から王子駅の向こう側にある王子製紙の工場
 が見えていた。ある日、渋沢は干してある洗濯
 物に、黒い点のようなものが付いていること
 に気が付いた。調べてみると、それは製紙工場
 の煙突から吐き出された煤であることがわか
 った。渋沢は近隣の住宅にも降り注いでいる
 に違いないと思い、すぐに善処するよう工場
 に指示を出し、幸い事なきを得ることが出来
 た。後日、渋沢は日本で最初の公害だったと語
 ったという。—

渋沢栄一は、自分自身が関係する事業が起
 因とする公害は意識して対応していたようだ
 が、足尾銅山鉱毒事件に発展する初期の段階
 で、五代友厚の半田銀山における公害防止協
 定の存在を知っていたならば、足尾銅山鉱毒
 被害拡大を未然に防いだと思えて仕方な
 い。

後日談となるが、1876年に五代友厚に
 よる半田銀山公害防止協定締結後の100年
 後に、閉山した足尾銅山公害防止協定が締結
 され、その両協定に類似点が多いのには驚く
 ばかりである。

足尾銅山歴史の一部

- ・1877年(明治10) 古河市兵衛、
足尾銅山を買収し経営に乗り出す。(相馬
家と共有)
- ・1878年(明治11) 渡良瀬川洪水、魚
被害発生。川水につかると足の指がただ
れる人が増加。



足尾銅山本山全景

- ・1880年(明治13) 足尾銅山組合(1
880-1888)発足。第一国立銀行
頭取であった渋沢栄一は、出資者、経営
者として参画。古河は商標とし、鉱業専
業を宣言。
- ・栃木県令、渡良瀬川の魚を有害と警告。
魚類捕獲禁止令を出す。
- ・1883年(明治16) 足尾産銅量が発
展、日本の首位になる。
- ・1885年(明治18) 栃木県足尾村、赤
倉・高原木・仁田元・久蔵・間藤・松木の
農作物に被害。6か村共同で知事へ請願
の準備。赤倉龍蔵寺住職の差金で松木を
除外して古河から示談金。
- ・1888年(明治21) 古河とシャーンデン
マジソン商会との銅売買契約成立、足尾
銅山の増産急ピッチとなる。組合解散と
なり、以降、足尾銅山は、相馬家共有から
古河の占有となる。渋沢栄一は鉱山事業
から退く。
- ・栃木県足尾村・松木で桑樹、煙害(亜硫
酸ガス)により全滅。唐風呂でも被害増。

「折句 五代友厚」 作 八木孝昌

Dream 五代塾 顧問 曾野 豪夫

万葉集

当塾の顧問だった八木孝昌先生は奈良時代(七〇〇年代)に編纂された「万葉集」(全二〇巻)の隠れた研究者でした。毎月一回催される勉強会は十五年間、実に一六四回に及んだのでした。万葉集は全部で四、五〇〇首あると言われていたのでこの講義の中断を余儀なくされたことは先生にとっても受講者にとっても誠に残念なことでした。

私も皆様と同じように中学校で万葉集を少し習いました。幾つかの句は今でも聞けばすんなりと思いつきます。日本の南西方面で波風が立っている現在、万葉集に選ばれた人々の中で最南端の人はごこの人のごどのような歌だろうか、と考えました。Wikipediaに簡単に、見つけられました。

鹿児島県最北西端の久阿根市でした。薩摩出身の五代友厚達は知っていたのでしょうか。

隼人(はやひこ)の
薩摩(さつま)の迫門(せと)を
雲居(くもゐ)なす
遠(とほ)くもわれは今日(けふ)
見(み)つるかも

巻三ー二四八

もう三〇年前になるでしょうか横浜に住んでいる頃、テレビで毎週のように万葉歌に独自の旋律をつけて万葉ファンとともに現地で朗唱する「犬養節」の番組がありました。犬養孝先生は日本全国の万葉故地に所縁の万葉歌を揮毫した「万葉歌碑」を建立され、その歌碑は一一一基におよぶとのことでした。

私が大阪府臨

海りんくうセンタ

ーで海外企業誘致

の仕事を引き退して

そのまま西宮に住

み、いよいよ犬養

節を聞きに行くこ

とを楽しみにして

いましたが、ちょ

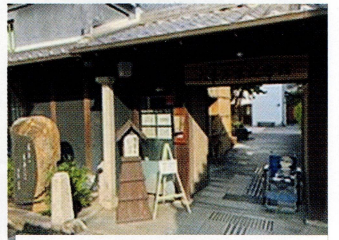
うど高齢でお亡くなりになったあとでした。

その後、暫くして八木先生の万葉集講座が始

まったのですが、私は急に東京にリターン

してしまつたので一回もご講義を聞く機会が

ありませんでした。心残りなことです。



明日香村の「犬養万葉記念館」
Wikipediaより

折句(おりく)

二年前、私は、八木先生は万葉集の研究家なので五代友厚についての和歌を詠じておられると思い、「Dream 五代塾新聞」に披露して頂きたい」とお願いしました。ところが驚いたことに左記のようなお返事を頂きました。

例示された折句「かきつばた」以外にも「は

るがすみ」「かすがなる」「はなぶらぎ」「をみ

なえし」「ねこやなぎ」「ひつじさる」「や、人名・地名など多くがあります。

回転折句という漢字の共有部を利用したのも

もあります。例えば京都龍安寺(りょうあんじ)の蹲(作賣、手水鉢、ちようず鉢)に刻まれた四字熟語が有名です。

五 矢口佳 ↓左回りに「唯吾知足(口を共有)

止 「唯、吾知るを足る」と読みます。

また十世紀末から十一世紀半ばまでに成立

したと言われるいろは歌は、七文字ごとに区

切って各節の末尾をつなぐと「とかなくてし

す(咎無くて死す)となり、無美を訴える文

になります。罪を起(こ)すことなく一生を終え

たい、の意味だとする説もあります。

八木先生がお亡くなりになる八日前に大

阪でお会いした時に「折句」を話題にする時間

がなくお礼を申し上げることを失いました。

半世紀近く前に井沢元彦著『猿丸幻視考』

(一九八〇)を読んで、中世日本人の文字や文

学に対する探究心と教養ある遊び心に心を惹

かれました。その上私個人的としては大正九

年に阪急電車神戸線が開通し、京都市内に住

んでいた祖父母が十三年に阪急芦屋川駅の南

西側に求めてあった土地に家屋を新築し、そ

の家から父は神戸の兼松商店に、叔父は第一

銀行大阪支店に、未

の叔父(のち外交官)

が浪速高校に通って

いました。その家

のお向かいさんが地元

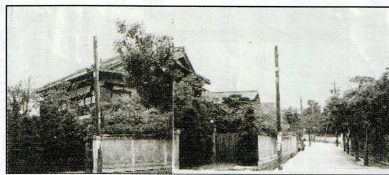
の猿丸邸だったので

す。大東亜戦争中の

空襲の始まる前、御

影第二国民学校の五

年生か六年生の時に



祖父母が大正時代に芦屋に新築した家。奥の平屋部分を含む。道路の右側が猿丸邸。昭和62年(1987)筆者写す(2枚繋ぎ合わせ)。

曾野豪夫様

2023年1月28日

メール拝見しました。私は研究者として万葉集を勉強していますが、歌人ではありません。ですから、五代友厚についての歌詠はありません。ただ私は趣味的に折句をつくることはしており、五代についての折句ならあります。折句とは、ご存じでしょうか、五七五七七の頭の音をつなぐと意味のある言葉になるというもので、『伊勢物語』の「かきつばた」の折句がよく知られています。

唐衣

着つつ慣れにし

妻しあれば

はるばる来ぬる

旅をしぞ思ふ

五代の名誉回復問題は最終局面を迎えており、3月に文部科学省の「文部科学記者会」で記者会見ができるよう、今準備を進めているところです。その名誉回復が実現した時点を想定して折句をつくってみました。二連続折句という、おそらくは誰もこれまでに試みた者のない折句です。

折々に

恵みの如き

出会ひありて

妙なる合力

動かせり山

五代公の

讒言記述

一斉に

まとめ正さる

すすぎの春よ

第一句と第二句の折句をつなぐと「おめでたう ございます」となります。これは私の感謝の気持を表しています。第一句で詠んでいるように、様々の出会いがあつて『新・五代友厚伝』が刊行され、様々の出会いがあつて五代友厚名誉回復活動が開始され、様々の出会いがあつて教科書等の五代記述書き替えが実現する運びとなった、そういう「合力」が不可能と思われた五代名誉回復につながり、「山を動かした」のだ、と詠んでいます。「合力」は歌にはふさわしくない固い言葉ですが、五代自身がヨーロッパ留学経験で学んだ事項を藩に提案するために作成した「建言ヶ条草稿」(『五代友厚伝記資料』第四巻史料一七)に使われている「商社合力」「同志合力」から採っています。

第二首の「讒言(ざんげん)」はキツイ表現ですが、折句の制約上、「誤解」という言葉を使うことができませんでした。

五代について歌詠があるだろうという曾野様のせつかくの「思い込み」を空振りにしないために、折句をご紹介したということにしておいてください。

八木孝昌

猿丸邸の勝手口から訪問したことを覚えてい
ます。
現代も、谷川俊太郎の折句を用いた詩が知
られています。

あくびがでるわ
いやげがさすわ
しにたいくらい
てんでたいくつ
まぬけなあなた
すべてころべ

漢詩では蔵頭詩(真意を蔵した、つまり隠し
た詩の意味)と言われています。一九九〇年の
『人民日報』海外版に「元宵」と題した春の訪
れをうたった詩が掲載されました。斜めに字
を拾うと総理の李鵬に対する批判が読み取
れ、「元宵事件」となりました。

英語圏でも折句(Acoustic)は広く知られ、
アメリカのエドガー・アラン・ポーは
“Acoustic”と題した詩を書いています。
若い頃に私はほんの少し「万葉集」に関心

を持ち、今も大切に残して
あるのは安田徳太郎著『人
間の歴史(二)日本人の起
源』(一九五二)とか同『万
葉集の謎』(一九五五)などです。レプ
チャ語が日本人と日本語のルーツの一部であ
る、と初めて知りました。



万葉集の謎
安田徳太郎著

一九七〇年代に私はネパールのカトマンズ
(標高三〇〇メートル)に出張しました。イ
ンドのコルカタ(旧カルカッタ)空港から一時
間三〇分の飛行時間でした。最初は日本政府
無償円借款によるフィジ
オ局の完成式に主契約
社を代表して。数年後、
時代の変化は急激でし
た。今度は同無償円借款
によるテレビ局建設契
約調印のためでした。



ヒマラヤ山頂を横にみて
Wikipediaより

インドのシッキム州に居住するチベット系
ブチャ人(人口数万人)に会いゆきたいと思
いましたが、猛烈な社マンだった私はあきらめ
ました。残念なことをしました。しかし朝四時
起きでヒマラヤ山脈の航空観光に招待され機
上からエヴェレスト山頂を拝んできました。
カトマンズに駐在する社マンは兼松一社の
みで、「苦勞さんなごでした。」

私の妹は奈良の冷泉(れいせい)家でお習字
と和歌を習っていました。何回か宮中歌会始
に詠進しましたが、もちろん採用されたこと
はありませんでした。

「野」
草わけて あきつ(とんぼ)飛び交ふ 花の野に
夕日照りはえし しばし佇む
宮中歌会始 詠進歌 平成二十九年

「野」は曾野の野。「照」の字は小学校以来の
長年の友人の名前からでした。

Dream 五代塾活動状況

2025年度 Dream 五代塾会員募集

- ・ 25年度も継続会員となって頂ける方、
 - ・ 新規に会員に入会して頂ける方、を募集します。
- 会費は **2,500円/年** (旧2,000円) に改訂しますので御
了承ください。《振込は3月中旬迄にお願いします》
尚、年会費対象期間は1月1日~12月31日です。

年会費 振り込み先

- ◆郵便局・ゆうちょ銀行 <店番: 0九九(099)>
- ◆口座記号番号: 00920-4-198557
- ◆加入者名: 川口建



(連絡先:川口建)
Email: gogoken12345@gmail.com
Tel: 080-4497-5688
HP: <https://www.dream-godai.com>

◆五代友厚ゆかりの地探索③実施

12月8日(土)「堺事件を語り継ぐ会」の依
頼を受け、今回で3回目となるゆかりの地探
索を実施した。(12名参加)



大阪中之島のシンボルの一
つである大阪市中央公会堂前
に10時集合、公会堂は民間人
で株式仲買人の「若本栄之助」
が父の遺産50万円と自身の
財産50万円を寄付し建設さ
れた。「渡米実業団」の参加で、
米国の寄付文化に感銘を受け
決意した。しかし、先の第一次
世界大戦時に莫大な損失を出し、周囲からは
寄付金の返還を勧めたが「一旦寄付したもの
を返せ」というのは大阪商人の恥」として拒否、
大正5年に自宅でピストル自殺を選んだ(享年
39)。大正7年10月に完成したが若本自身
は公会堂を見ることができなかった。

さて、いよいよ中之島を中心に約5kmの行
程スタート。大阪通商会社・為替会社跡↓大阪
商法会議所跡↓北御堂↓五代友厚旧邸(現
大阪科学技術館)↓大阪製銅会社創業の地↓
五代友厚精藍所・西朝陽館跡↓堂島米市場の
跡↓五代最後の自邸・弘成館(現日本銀行大阪
支店) ↓13時解散。

◆第19回五代塾セミナー実施

12月21日(土)「大阪外国掛の仕事」をテー
マに勉強会を実施。(13名参加)

五代は明治新政府の仕事として1868年
上洛する。前年末の大政奉還・王政復古が宣言
され徳川幕府は大坂城へ退き明治新政府へと
政治が大きく変わった。その過程で鳥羽伏見
の戦い、戊辰戦争と国内最大の内紛を経験し
た。五代は国内政治と外交の基盤構築に邁進
した。上洛と同時に外国との間で三大渉外事
件に関わり、川口運上所・大阪港の運営、川口
居留地の管理、松島遊廓の統合、仏国からの電
信建設願いや米国からの京都・大阪・神戸間の

鉄道敷設願いは、日本国が運営すべきことと
拒否、また造幣寮の場所検討と機械購入まで
手掛けた。五代の外国掛の仕事は概ね一年半
の期間であったが、政府として大変意義のあ
る仕事ぶりであったといえる。明治2年(18
69)5月15日会計官判事の辞令を受け、24
日に横浜転勤を命ぜられる。一方その10日後
には大阪外国掛職員151
名の「才助殿阪地御再動嘆願
書」が出る。五代は7月4日
政府に辞表を出し退官、大阪
に戻った。五代は戦いを旨と
する戊辰戦争や明治政府の
体制、地元薩摩の不評などの
理不尽さが民に下る決断と、
国家の力は富国が第一義と
判断したのではないか。五代の「志と覚悟」は
当新聞一頁を再読願いたい。



◆第20回 Dream 五代塾セミナー予定

日時: 2025年2月15日(土)

14時~16時(原則偶数月第3土曜日)
テーマ:「開学の祖 五代友厚小伝」全18話
内第9話 戯作「物難獣」と官職辞任

場所: 川口宅
会費: 1000円(セミナー後の懇親会費含む)

その他お知らせ

■土佐藩士及び仏兵犠牲者法要及び講演会

主催: 堺事件を語り継ぐ会
日時: 25年2月23日(日・祝)

13時~17時
場所: 堺市妙國寺 会費: 1000円

■故八木孝昌さんを偲ぶ会

主催: 呼びかけ人一同
日時: 25年2月24日(月・振替休日)

14時~16時30分
場所: ホテルアウイーナ大阪
会費: 4000円

編集後記はお休みします